

JICA 横浜 海外移住資料館

館報

2025 年度



はじめに

2025 年は日本とブラジルの間で外交関係が結ばれてから 130 周年の節目の年でした。6 月には秋篠宮佳子内親王殿下が訪伯され、そのご訪問に先立つ 4 月には当館にお越しになり、ご進講をお受けになるとともに館内をご視察くださいました。年間来館者人数は、47,000 人を超え、開館以来第 3 位の入館人数となりました。当館に関心を持ち、足を運んでいただいた皆様、ご協力くださる関係者の皆様、そして当館の活動を支えてくださる地域の皆様に、厚く御礼申し上げます。

企画展示は、8 月にカナダ日系文化センター・博物館の協力のもと「BROKEN PROMISES 破られた約束 ―太平洋戦争下の日系カナダ人―」を開催いたしました。カナダ日本人移民の始まりから、第二次世界大戦に至るまでの日系人に対する差別意識の高まりと排日運動の激化、および戦時下の差別政策について解説するとともに、7 人の登場人物を中心に当事者たちの体験を伝えました。公開講座では、中山信子・レナ氏を講師にお迎えし、第二次世界大戦直後に「送還」された貴重な証言を伺い、日系カナダ人の歴史や日加関係について考える場となりました。

2 月には、「巡回パネル展示 追憶―絵画からたどる日系アメリカ人の歴史と美術：全米日系人博物館のコレクションより」を開催いたしました。アメリカ・ロサンゼルスにある全米日系人博物館の所蔵コレクションから、ヘンリー・ユズル・スギモトやミネ・オークボ等、日系アメリカ人アーティストを代表する絵画作品をパネル展示で紹介しました。公開講座では、全米日系人博物館より三木昌子氏を講師にお迎えし、展示作品アーティストの来歴や逸話、同博物館の収蔵コレクション等をお話しいただきました。

体験学習コーナーにおけるミニ展示では、『海外移住資料館だより』で振り返る「戦争と日系社会」と「コーヒーが結んだ日系人と日本」を開催しました。

戦後 80 年の節目に、当館で発行した『海外移住資料館だより』のうち、戦争をテーマにした号を展示したり、日本・ブラジル外交樹立 130 周年を記念して、コーヒーが結んだ日本と日系社会、ブラジルとの関係について紹介しました。

イベント関連では、11 月に日系アメリカ人三世で俳優のジョージ・タケイ氏の絵本『ぼくらの自由がうばわれる時 第二次世界大戦の日系アメリカ人の物語（原題：My Lost Freedom）』の出版を記念して、セレモニーとサイン会を開催しました。2022 年以來の来館

となり、会場は家族連れやファンの方々の熱気に包まれました。

団体の皆様にも多くご来館いただきました。教育プログラムには学校を中心に計 362 団体、10,596 名にご参加いただきました。校外学習の一環として、当館をご利用いただく機会が増え、横浜市をはじめとした多くの学校にご来館いただきました。体験型の展示コーナーで楽しく遊びながら学びを深めたり、野菜山車やハワイの一家の写真を見ていただくことで、「教科書とは違う学びができた！」と喜び溢れるお声をいただきました。

さらに、2025 年度も昨年度に引き続き「教員のための博物館の日」を開催し、資料館を活用した授業づくりに関する研修を行いました。この研修を通して、先生方には移住の歴史や移民をテーマにしたさまざまな授業アイデアを考えていただきました。現在、学校では日本人の海外移住の歴史を勉強することはほとんどありませんが、今後もこのような機会を通して、先生方に理解を深めていただき、学校現場でも扱っていただけるよう働きかけていきたいと考えています。

研究・学芸部門では、6 件の学術研究プロジェクトが継続して実施されました。また、2006 年に発刊を開始した『研究紀要』は、第 20 号という貴重な節目を迎えることができました。これらの研究成果は、私たちを取り巻く環境が大きく変化する時代においても新たな視座を与えてくれるものとなっております。さらに、第六回 JICA 海外移住「論文」及び「エッセイ・評論」の受賞作品においては、両部門ともにさまざまな視点から移住の歴史や移住者の足跡を掘り下げ、文化活動、教育、ジャーナリズムなど多岐にわたるテーマについて、新たな視点を与えてくれるものとなっております。

現在、日本に在留する外国人は 350 万人を超え、私たちの社会はますます多様化しています。このような時代の中で、海外移住の歴史に触れることは、異なる文化や背景を持つ人々への理解を深め、共に生きる社会を築くうえで重要な手がかりとなります。今後も、移住の歴史を伝えることを通して、過去と現在を結び付ける役割を果たしながら、さまざまな活動に尽力してまいります。引き続き当館の活動へのご支援・ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

目 次

1. 展示・教育・広報

- (1) 展示イベント等1
- (2) 教育普及活動 15
- (3) 広報活動 27
- (4) アンケート調査 29

2. 資料収集・整備

- (1) 資料等情報整備 30
- (2) 情報システム 32

3. 研究活動

- (1) 学術研究プロジェクト 33
- (2) 研究紀要の発行 36
- (3) JICA 海外移住「論文」及び「エッセイ・評論」
募集事業 36

4. 運営委員会・学術委員会

- (1) 運営委員会 38
- (2) 学術委員会 38

5. 各種実績等

- (1) 来館者受入 39
- (2) 他館・他機関への訪問 40
- (3) その他 40
- (4) 他館への資料貸出 40
- (5) 各種実績データ 42

1. 展示・教育・広報

(1) 展示イベント等

1) 展示、イベント一覧

企画展示1 「Broken Promises 破られた約束―太平洋戦争下の日系カナダ人―」

開催期間：8月15日（金）～12月7日（日）

開催期間中入館者数：15,186名

概要：プロジェクト「Landscapes of Injustice（不正義の風景）」を基に2020年、カナダ日系文化センター・博物館が「Broken Promises（破られた約束）」の展示を企画・制作したものを、当館で巡回展示として開催した。第二次世界大戦中、カナダでは日系人の強制立ち退きおよび収容に加え、政府が日系人の財産の強制的な没収と売却を主導した。展示では、カナダ日本人移民の始まりから、第二次世界大戦に至るまでの日系人に対する差別意識の高まりと排日運動の激化、および戦時下の差別政策について解説を加え、7人の登場人物を中心に当事者たちの体験を伝えた。



企画展示2 巡回パネル展示「追憶―絵画からたどる日系アメリカ人の歴史と美術：全米日系人博物館のコレクションより」

開催期間：2月13日（金）～5月10日（日）

開催期間中入館者数：6,109名（3月31日時点）

概要：アメリカ・ロサンゼルスにある全米日系人博物館の所蔵コレクションから、多彩な日系アメリカ人アーティストの芸術作品をパネル展示で紹介した。第二次世界大戦中、1942年2月19日「大統領令9066号」の発令後、アメリカ西海岸に住んでいた日系アメリカ人は、国内の強制収容所へと送られた。彼らはその過酷な生活においても、想像力やユーモアを失わず、その中で見つけた美を描いてきた。現在、全米各地のニッケ



イコミュニティでは「大統領令 9066 号」が発令された 2 月 19 日を「追憶の日 (Day of Remembrance)」とし、日系アメリカ人の強制収容の歴史を振り返り、その歴史の教訓を現在、そして未来に活かしていくための行動の日としている。その歴史をたどり、日系アメリカ人アーティストのたくましさや芸術性を感じてもらふ展示となった。

ミニ展示 1 『海外移住資料館だより』でふりかえる「戦争と日系社会」

開催期間：7 月 26 日（土）～8 月 31 日（日）

概要：戦後 80 年の節目に、過去に当館が発行した『海外移住資料館だより』のうち、戦争をテーマとした下記の号をまとめて体験学習コーナーにて展示した。

展示した『海外移住資料館だより』一覧

- | | |
|--------------------------|---|
| ■第 15 号（2009 年 Spring） | 戦争と移住者～1942 年・アメリカ～ |
| ■第 20 号（2010 年 Summer） | 日系二世兵士の見た終戦直後の日本 |
| ■第 21 号（2011 年 Spring） | 収容所にて～第二次大戦下の北米日系人～
ヘンリー杉本作品展 |
| ■第 35 号（2014 年 Summer） | うらってなあに？日本を助けたおくりもの
ーうら物資にみる海外日系人との絆 |
| ■第 39 号（2015 年 Summer） | 終戦 70 年企画展示 海を超えたヒロシマ・ナガサキ |
| ■第 46 号（2017 年 Summer） | ハワイ日系人の歩み |
| ■第 54 号（2020 年 November） | シアトルのハントホテル
ー日本語学校の知られざる歴史 1945-1959 |
| ■第 62 号（2024 年 August） | 戦争と日系人～偏見や差別との闘い～ |

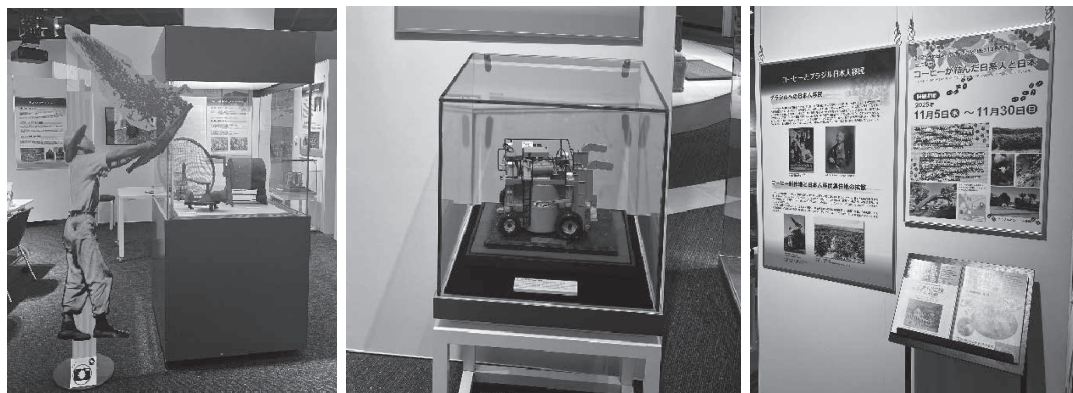


ミニ展示 2 日本・ブラジル外交樹立 130 周年記念ミニ展示 「コーヒーが結んだ日系人と日本」

開催期間：11 月 5 日（水）～11 月 30 日（日）

概要：日本・ブラジル外交樹立 130 周年を記念して、2019 年に当館で開催した同名の企画展示の中から一部のパネルとコーヒーに関連する実物資料を体験学習コーナーにて展示した。1908 年に第 1 回契約移民を載せた笠戸丸がブラジルに到着して以降、約 26 万人の日本人が渡った。その子孫である約 270 万人の日系人は、現在も両国関係で重要な役割を担っている。日本におけるコーヒーの普及は彼らと密接な関係があり、前出の第 1 回ブラジル

移民に同行した移民会社社長の水野龍は、移民が生産したコーヒーを国内で普及させることが彼らの応援になると考え、1910年に「カフェーパウリスタ」を全国展開した。このように、コーヒーと日本人移民には切り離せない歴史がある。本ミニ展示では、この節目に合わせ、改めてコーヒーが結んだ日本と日系社会、そしてブラジルとの関係について紹介した。



ミニ展示3 WBC 応援企画ミニ展示「野球と日系人」

開催期間：3月6日（金）～3月22日（日）

概要：3月5日から開幕したWBCの応援企画展示として、ミニ展示「野球と日系人」を開催した。2016年7月16日～9月15日まで開催されていた企画展示「二つのオリンピック スポーツがつかない日系社会―」において展示していた野球に関するパネル2枚と、ユニフォームやバット等の標本資料を、2階廊下に展示した。またWBCのリーグ表・トーナメント表をリアルタイムの勝敗が分かるよう展示し、より来館者に興味を持って頂けるよう設置した。



イベント1 移民研究会共催講演会「日米両国の友好の原点－ジョン万次郎の足跡」

開催日：4月12日（土）14：00～15：30

講師：中濱 京氏（ジョン万次郎直系5代目）

参加者：99名

概要：移民研究会との共催で、ジョン万次郎の直系5代目に当たる、中濱 京氏に、米国大陸に初めて上陸した日本人として知られる中濱万次郎（ジョン万次郎）についてご講演いただいた。14歳で漂流により辿り着いた鳥島で1841年に米国の捕鯨船ジョン・ハウランド号のホイットフィールド船長との偶然な出会いや、中濱家に伝わるエピソードをご紹介いただいた。明治維新以前からホイットフィールド家と中濱家の固い絆はどのように子孫に受け継がれ、今日どのように発展しつつあるか、両家の深い絆を通じた人間愛についてもお話頂いた。



イベント2 【海外移住の日・国際日系デー周知イベント】パネル展示

開催期間：6月1日（日）～6月30日（月）

概要：6月の「海外移住の日（18日）」と「国際日系デー（20日）」にちなみ、同月の1か月間、JICA横浜2階廊下にてパネル展示を行い、両記念日を広く知っていただく機会とした。



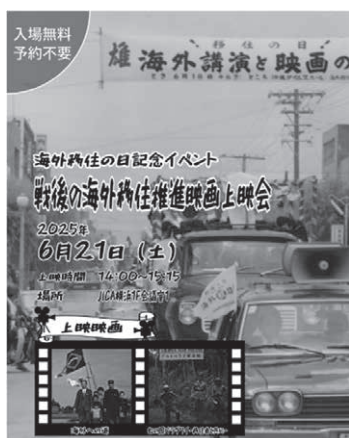
イベント3 【海外移住の日記念イベント】戦後の海外移住推進映画上映会

開催日時：6月21日（土）14：00～15：15

参加者：41名

概要：JICAの前身である日本海外協会連合会および日本海外移住振興会社が企画・制作した海外移住推進用の16mmフィルムを、映像・音声を調整しデジタル化。このうち2本を上映した。作中では、移住の申し込みなど各種手続き方法や横浜移住あっせん所での渡航前講習、横浜港出航後の船内の様子、アルゼンチンのブエノス・アイレス港を経由しパラグア

イの日本人移住地へ至るまでの道のりと移住地の生活を紹介。当時の募集の実態や移住者の決意を伝えた。



上映作品は以下のとおり

①海外への道（1962 年）

企画：日本海外協会連合会

製作：生物映画研究所

後援：外務省

②虹の国パラグワイー移住者と共にー（制作年不明）

企画：日本海外移住振興株式会社

製作：文映株式会社

後援：外務省移住局

イベント4 「Art & Museum 2025 夏」クイズ付きマップ配布イベント（みなとみらい21 地区連携）

開催期間：7月10日（木）～8月31日（日）

概要：一般社団法人横浜みなとみらい21が推進し、みなとみらい21地区内の22施設が連携して行う「みなとみらい Art & Museum」の夏休みイベントに、今年も参画した。今年は「みなとみらいからの挑戦状」と題し、各施設から出題されたクイズを掲載したマップを配布した。また館内にマップを掲示し、入館者が楽しみながら新たな学びと出会うきっかけを提供した。



イベント5 「ミュージアム・ミッション2025」（10館園連携）

開催期間：7月19日（土）～8月31日（日）

参加者：272名

概要：神奈川県立歴史博物館を中心に、関内・山手・みなとみらい地区の10ミュージアムが連携して行う夏休み恒例のクイズラリーに、今年も参画した。各館のミッションをクリアしてシールを集めると、3館園で限定缶バッジ、6館園で達成賞の賞状などの特典が贈られるイベントで、2025年度で23回目の開催となった。当館では、期間中にシール272枚、缶バッジ26個を配布した。なお今年度は、6館園達成賞のダブルチャンス（限定ツアー）についても当館が担当し、その企画・実施にあたった（詳細はイベント12の項を参照）



イベント6 【夏休み子ども向けイベント】昔のパスポートをつくってみよう！ ーパスポートのおはなしとワークショップー

開催日時：7月26日（土）①11：15～12：00 ②13：15～14：00

8月6日（水）①11：15～12：00 ②13：15～14：00

参加者：7月26日（土）①37名（子ども18名/保護者19名）②43名（子ども24名/保護者19名）

8月6日（水）①34名（子ども20名/保護者14名）②32名（子ども19名/保護者13名）

概要：小学校3年生～6年生を対象とした親子参加型のイベント。パスポートの役割や、開国から現代に至る歴史をクイズで学ぶとともに、江戸時代末期のパスポートを再現・作成するワークショップを開催した。参加者には作成したパスポートを夏休みの自由研究用として持ち帰ってもらったほか、当館オリジナルの移民船デザインクリアファイルを記念品として配布した。



イベント7 2025年教員のための博物館の日 ～授業における博物館活用・多様な学びのための研修会～

開催日：7月28日（月）午前の部 10:00～12:20、午後の部 13:30～16:00

参加者：22名

概要：2008年に国立科学博物館が始め、全国の博物館に広がっている「教員のための博物館の日」を今年度も実施。全国の教員や教育関係者を対象とし、「平和・人権」をテーマに海外移住資料館ガイドツアーや講義・ワークショップを実施した。講義・ワークショップは、当館学術研究プロジェクトメンバーの先生方を講師にお迎えし、社会を想像/創造するための移民学習の意義を考えながら、資料館を活用した授業や学びのアイデアの共有を行った。「人の持つルーツについていろいろ考えさせられた。」「他校種の先生のお考え、体験などを知る機会となった。授業例や授業に使える資料もたくさん共有され、自分なりに活かしていけると考える。」などの声が聞かれた。

イベント8 子ども霞が関見学デー

開催日：8月6日（水）～7日（木）

会場：中央合同庁舎

参加者：約500名

概要：霞が関に所在する文部科学省をはじめ、各府省庁や団体等が連携し、所管の業務説明や関連業務の展示等を行うことにより、夏休み期間中に子どもたちに広く社会を知ってもらうこと、

政府の施策に対する理解を深めてもらうこと、活動参加を通じて親子の触れ合いを深めてもらうことを目的とした取組で、当館もブース出展を行った。当日は移住者が船上運動会等で行っていたビン釣りイベントを開催し、子どもたちを中心に多くの方に体験していただいた。

イベント9 【夏休み子ども向けイベント】海外移住資料館に紙芝居師がやってくる！ 紙芝居でまなぶ移住のおはなし

開催日時：8月30日（土）

①13：00～13：40（タイトル『弁当からミックスプレートへ』）

②14：00～14：40（タイトル『ハワイにわたった日系移民』）

参加者：①42名 ②31名

概要：プロの紙芝居師スズキスズ氏を招き、当館が制作した紙芝居2作品の実演を行った。拍子木の合図で始まった上演では、日系移民の歴史や文化に関するクイズの出題や紙芝居文化の解説も行われ、小さな子どもから高齢者まで幅広い世代の参加者が熱心に見入っていた。最後まで参加した来館者には、記念品として当館オリジナルの色鉛筆と塗り絵セットを配布した。



イベント10 戦後80年「日系」をとおして平和を考える夏！ すずきじゅんいち監督作品 日系映画三部作 上映会

開催日時：①8月2日（土）（タイトル『東洋宮武が覗いた時代』）

②8月9日（土）（タイトル『442 日系部隊 アメリカ史上最強の陸軍』）

③8月16日（土）（タイトル『二つの祖国で』）

各回13：45～16：00

参加者：①103名 ②98名 ③102名

概要：戦後80年の節目に合わせ、すずきじゅんいち監督が手掛けた日系映画三部作を3週連続で上映した。大戦中に強制収容などの悲劇や差別に直面しながらも、日本とアメリカの狭間で葛藤し闘った日系人の歴史を描いたドキュメンタリー3作品を順次上映し、多くの来館者が平和の意義を再考する機会となった。各回の上映後には、すずき監督によるトークショーも開催された。なお、初回の8月2日に



は、撮影に参加した女優の榊原み氏もゲストとして登壇し、当時の制作秘話などが語られる貴重な上映会となった。

なお、本上映会に先立ち、メディア関係者を対象とした特別試写会も実施。上記三部作を教育機関向けに40分に凝縮した「誰も知らない 日系アメリカ人の歴史」を上映。すずき監督による講話やインタビュー取材の時間も設けられた。(7月29日(火)16:00~17:15)



イベント11 SCAJ World Specialty Coffee Conference and Exhibition 2025

開催日：9月24日(水)~27日(土)

会場：東京ビッグサイト

ブース来場者：約700名

概要：一般社団法人日本スペシャルティコーヒー協会（SCAJ）が主催するイベント、「SCAJ WORLD SPECIALTY COFFEE CONFERENCE AND EXHIBITION 2025」にブース出展した。本イベントは70カ国・地域のコーヒー関係者や商品が一堂に集まるアジア屈指のスペシャルティコーヒーイベントで、当館はブラジルからコーヒー生産者の方々をお招きし、現地の農園の紹介や試飲会を行うブースを出展した。生産者のファミリーヒストリーや移住の歴史とコーヒーとの関係にも注目が集まり、新たな関心層の開拓につながる機会となった。

イベント12 JICA 横浜&海外移住資料館ツアー (「ミュージアム・ミッション2025」6館園達成賞として)

開催日時：10月5日(日)10:30~12:30

参加者：21名(子ども10名/保護者・大人11名)

概要：近隣館園との連携イベント「ミュージアム・ミッション2025」(詳細はイベント5の項を参照)の6館園達成者を対象に、特別限定イベント「JICA 横浜&海外移住資料館ツアー」を実施した(抽選事務は神奈川県立歴史博物館の事務局が対応)。普段は一般公開していない海外移住資料館のバックヤードやJICA横浜内の研修エリアなどを、スタッフの解説付きで案内した。最後はペルーの国民的炭酸飲料をスペイン語の「サルー! (乾杯)」の掛け声で試飲。当館オリジナル記念品を進呈した。本ツアーは、参加者に資料館の運営や国際協力への更なる関心と理解を深める機会を提供するものとなった。



イベント13 「教育・文化週間」ノベルティプレゼント

開催日：11月1日(土)~7日(金)

概要：「教育・文化週間」は、11月3日の「文化の日」を中心として、教育・文化に関連する行事等の実施を通して国民の教育・文化への関心と理解を深め、その充実振興を図ることを目的

としている。期間中には全国で体験活動、公開講座、美術館・博物館の無料開放など、様々なイベントが開催される。当館では、期間中ご来館いただいた方に、海外移住資料館オリジナルノベルティ「移民船クリアファイル」をプレゼントした。

イベント14 オンラインセミナー「ボリビア・リベラルタとともに生きた日本人一下瀬甚吉」

開催日時：11月19日（水）19：00～20：30

講師：大島 正裕 氏（立教大学ラテンアメリカ研究所研究員）

参加者：参加登録者 90名 / 当日参加者 63名 ※Zoom ウェビナーでの開催

概要：第五回（2024年度）JICA 海外移住「論文」および「エッセイ・評論」のエッセイ・評論部門で最優秀賞を受賞した大島正裕氏を講師に迎え、オンラインセミナーを開催した。20世紀初頭にゴム産業で栄えたボリビア・リベラルタを舞台に、厳しい時代を生き抜き現地社会に貢献した山口県出身の移住者・下瀬甚吉（ボリビアの詩人ペドロ・シモセの父）の足跡を紹介。地元社会に溶け込み、日本人移住者のプレゼンスを高めるために尽力した先人の生涯を知ることによってボリビア移住史への理解を深める機会となった。

イベント15 ジョージ・タケイ氏絵本出版記念セレモニー＆サイン会

開催日時：11月22日（土）14：00～16：35

登壇者：ジョージ・ホサト・タケイ氏（英名 George Hosato Takei / 日本名 武井 穂郷）

参加者：70名

概要：常設展示場のインタビュー証言映像でもご協力いただいている日系アメリカ人三世で俳優のジョージ・タケイ氏。同氏による絵本『ぼくらの自由がうばわれる時 第二次世界大戦の日系アメリカ人の物語（原題：My Lost Freedom）』の出版を記念し、セレモニーとサイン会を開催した。「特に若い世代に届けたい」という同氏の願いを受け、中学生以下のお子様をお連れのご家族を対象とした家族優先枠を設けて事前申込受付を行った。当日は、ジョージ・タケイ氏自身の子ども時代における強制収容所での体験が紹介され、多くの参加者が一人ひとりサインを受け取りながら交流を深めた。日系アメリカ人の歴史を広く共有し、移住史や人権への理解を深める貴重な機会となった。



イベント16 オンラインセミナー「日本人移民が向き合う孤独と母語教育・同胞コミュニティの重要性 -1950年代の北米報知の記事を起点に-」

開催日時：12月20日（土）10：00～11：30

講師：長沼 彩花 氏（オタワ大学国際公共政策大学院修士課程）

参加者：参加登録者 94名 / 当日参加者 60名 ※Zoom ウェビナーでの開催

概要：第五回（2024年度）JICA 海外移住「論文」および「エッセイ・評論」のエッセイ・評論部門で優秀賞を受賞した長沼彩花氏を講師に迎え、オンラインセミナーを開催した。セミナーでは、1950年代の邦字新聞『北米報知』の記事を起点に、移民が異国に適応するプ

ロセスにおける母語教育と同胞コミュニティの重要性について解説が行われた。北米の日本人移民コミュニティの歴史を振り返りつつ、現代の日本人移民が直面する孤独やメンタルヘルスの課題、多文化社会におけるアイデンティティ尊重の重要性について、講師自身の移民体験を交えながら考察を深める機会となった。

イベント17 【宝探しイベント】JOMM QUEST(ジョム クエスト) 2025-2026 冬

開催期間：12月20日(土)～2月1日(日)

参加者：1,068名

概要：2023年および2024年の夏季に開催し盛況を博した宝探しイベントについて、2025年は実施時期を冬季に移して開催した。本イベントは、展示場内を宝島に見立て、受付で配布された「宝の地図」と「指令書」をもとに制限時間なしで資料を探索する体験型企画である。事前予約不要で子どもから大人まで気軽に参加できる仕組みとし、全ての宝を見つけた参加者には当館名入りの記念品(フリクションペンまたは色鉛筆)を進呈した。移住先で活躍・貢献した日本人・日系人の生活や取組みをクイズ形式で紐解くことで、学校では触れる機会の少ない歴史を家族で楽しく学ぶ機会を提供した。



イベント18 【パネル展】移民画家 半田知雄が見た世界

開催期間：1月21日(水)～2月12日(木)

会場：JICA 市ヶ谷

参加者：1,068名

概要：ブラジルへ移住した画家、半田知雄の絵画パネル展をJICA 市ヶ谷にて開催した。1895年に日本とブラジルが外交関係を樹立し、1908年には、ブラジルへの日本人の集団移住が始まり、多くの日本人が移住した。その中の一人、半田知雄は、1906年に日本で生まれ、11歳の時に家族とともにブラジルへ渡り、コーヒー農園で働いた。1935年、サンパウロ美術学校を卒業した半田は日系画家の草分け的存在となり活躍していく。



太平洋戦争が始まると、ブラジルの日系人は敵性外国人として行動を制限されるようになった。スケッチ旅行に出かけられなくなった半田は、ブラジルへ渡ったところの体験をもとに、コーヒー農園での仕事や農村の生活風景などを描き、移住先での様子が分かる作品を多く残し、生涯、絵画の制作をつづけた。コーヒー農園で働く労働者、原生林の伐採、農民の生活風景、農村のお祭りの様子など、絵画を通してブラジルへ渡った移住者の様子が分かる展示となった。

イベント19 「みなとみらい Museum DAY」(みなとみらい21 地区連携)

開催期間：1月31日(土)～2月1日(日)

参加者：127名

概要：一般社団法人横浜みなとみらい21が主催する、地区内の企業ミュージアム等を回遊するイベント『みなとみらい Museum DAY』に参画した。期間中、当館への来館者に対して「みなとみらい Art & Museum オリジナルステッカー」を配布したほか、当館では特別イベントも実施。このイベントでは、来館者がオリジナルワークシートに挑戦し全問正解すると、かつて日本人が移住した国々の国旗缶バッジが入ったカプセルトイに1回挑戦できる企画を行った。近隣施設との連携を通じてみなとみらい21地区全体の回遊性向上に寄与するとともに、多くの来館者へ楽しみながら日本人の海外移住の歴史やその国々に関心を持つきっかけを提供した。



イベント20 オンラインセミナー「ハワイ移民の岐路 和助の生涯 —TWO HIROTA FAMILY'S HISTORY—」

開催日時：2月28日(土) 14:00～15:30

講師：小迫 孝乃 氏 (「お寺と教会の親なきあと相談室」アドバイザー)

参加者：参加登録者 83名 / 当日参加者 59名 ※Zoom ウェビナーでの開催

概要：第五回(2024年度)および第六回(2025年度)JICA海外移住「論文」および「エッセイ・評論」のエッセイ・評論部門で優秀賞を受賞した小迫孝乃氏を講師に迎え、オンラインセミナーを開催した。セミナーでは、ハワイに移民した曾祖父の生涯を巡る3年間の調査を起点に、インターネットを通じてアメリカの親族と奇跡的な再会を果たした経緯を紹介。激動の時代に移民として生きた先人の選択と思いに迫り、家族の歴史を通じた移住史への理解を深める機会となった。

公開講座1 「第二次世界大戦後日本に「送還」された日系カナダ人 ―戦後の歩みを語る―」

開催日：10月18日（土）14:00～15:30

講師：中山信子・レナ氏
（Japanese-Canadian Stories from Japan編著者、
バンクーバー生まれの日系カナダ人）

司会：飯野正子氏（津田塾大学理事・名誉教授）

参加者：121名

概要：当館学術研究プロジェクトの飯野プロジェクト協力のもと、戦後、日本に「送還」された中山信子・レナ氏にご講演いただいた。当日は飯野正子学術委員長に日系カナダ人の歴史について簡単にお話いただき、その後中山氏との対談形式で進められた。中山氏はこれまでのさまざまなご苦労や体験などを明るくお話しくださったこともあり、会場は和やかな雰囲気の中、大好評の講演会となった。また各種メディアの取材も行われた。



公開講座2 「歴史をつむぐ、歴史をつなぐ」

開催日：3月14日（土）14:00～15:30

講師：三木昌子氏
（全米日系人博物館 渉外担当ディレクター）

参加者：74名

概要：展示のプロジェクトマネージャーである全米日系人博物館の三木昌子さんを講師としてお迎えし、展示作品のアーティストの来歴や逸話、現在改修工事中の全米日系人博物館の歴史や収蔵コレクション、裏話などをお話しいただいた。移民の歴史を美術の視点から紐解いていくお話しに引き込まれ、参加者からは、「作品とともに講演を聞くことができ、インパクトがあった。」「今を生きる私たちが持つべき視点がたくさんあることを感じる事ができた。」といった感想が寄せられた。



企画展示関連イベント1 「サンノゼ・ジャパントウンからタイコでつながる世界」

開催日：4月19日(土) 14:00～15:30

講師：PJ・ヒラバヤシ氏、ロイ・ヒラバヤシ氏
(サンノゼタイコ創設メンバー)

参加者：62名

概要：アメリカ サンノゼ・ジャパントウンを拠点として活動するサンノゼタイコの創設メンバー、PJ・ヒラバヤシ&ロイ・ヒラバヤシご夫妻に、サンノゼ・ジャパントウンにおけるコミュニティとタイコの関係や、サンノゼタイコの代表作である盆踊り曲「エイジャナイカ (Ei Ja Nai Ka)」についてご紹介いただいた。当日は講師のお2名に加え、4名の関係者も加わり、さまざまな視点からのサンノゼタイコについてお話いただいた。



また、講演後には1階ロビーにて、エイジャナイカの実演も行われ、参加者を交えての盆踊りが行われた。



企画展示関連イベント2 「After the Broken Promises 破られた約束のその後」

開催日：12月6日（土）14:00～15:30

講師：ジョーダン・スタンガー・ロス（Jordan Stanger-Ross）氏
（カナダ ビクトリア大学 歴史学教授）

参加者：55名

概要：スタンガー・ロス教授が、近著『追放への挑戦—日系カナダ人と戦時法令』（Challenging Exile: Japanese Canadians and the Wartime Constitution）の内容を中心に、企画展示「破られた約束」で紹介したエピソードのその後について語っていただいた。日系カナダ人の財産保護を怠ったカナダ政府は、彼らから安住の地を奪った。家や財産を失った日系カナダ人は、カナダ政府から、追放を突き付けられ、カナダ政府は可能なかぎり多くの日系カナダ人を日本へ「送還」しようと試みた。講演では、このカナダ政府の不当な決定と、その剥奪の結果として、家を失い、また国をも失った人々の体験についてお話いただいた。



(2) 教育普及活動

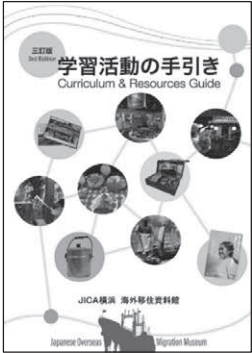
1) 教育プログラムの概要

当館では、日本人移民に関する資料の収集、保存、展示、研究活動のほか、設立趣旨にあるように移住者たちの足跡や役割について多くの人々に伝え、理解を深めてもらう役割を担っている。また、特に若い世代の人々に、これからの共生社会を築いていく一員として、あるいは開発教育の視点からも、一人ひとりに移住者からのメッセージを受け止めてもらいたいとの思いから、開館当初より、教育普及活動に積極的に取り組んでいる。

現在、日本においても外国から多くの人々が移り住み、多文化社会が進展してきており、共生社会の実現が教育の分野においても大きな課題になっている。そこで、日本人の海外移住の歴史と日系人の生活について展示を行っている当館では、そのような課題に応え、教育関係者を対象として、指導者向けの解説書である『学習活動の手引き』の作成をはじめとし、教材開発やボランティアによる展示ガイド等、多様な教育プログラムを実施している。

今後、世界の移民人口はますます増加すると予想されている。未来に向けて、考え、解決すべき問題も多く存在している。私たちは、そうした問題に正面から向き合いながら、これからも、多様な人々が共生できる社会を育み続けていかねばならない。当館の教育プログラムを「共生にむけて」社会参加ができる子どもたちの育成のために活用いただければと考えている。

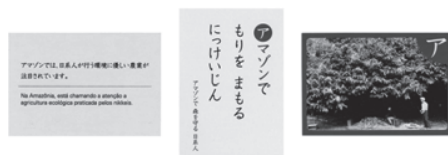
表：海外移住資料館の学習教材

【学習活動の手引き】WEB公開 当館の見学を伴う学習活動や当館教材を用いた学習活動を掲載した『学習活動の手引き』の三訂版では、当館の展示リニューアルに合わせて活動案を改訂し、海外移住の歴史を通して、多文化共生についても学べるよう、現代の教育ニーズに合わせて作成している。活動を実践しやすいようにワークシートや参考資料をHPからダウンロードできるように作成した。学校での授業や、NGO/NPO関係の方々のワークショップの際の参考として利用できる。	
【移民カルタ】貸出可 日本人の海外移住の歴史、移住者の生活や心情、日本に住む日系人の生活や思いなど、子どもたちに知ってほしい移民に関するさまざまな事柄を、遊びをとおして楽しみながら学ぶことができる。 普通サイズのほかに、子どもたちが体を動かし楽しみながら学べる大判サイズあり（たて31.8cm×よこ29.7cm）。移民に関する様々な事柄を説明するためのパネルとしても活用が可能。なお、読み札は通常サイズ。	

【日本-ブラジル移民カルタ】貸出可

日系ブラジル人の歴史や文化を学ぶだけではなく、日系ブラジル人の継承日本語教育の学習教材としても活用できるよう、日本語とポルトガル語の解説が併記されるなど、さまざまな工夫が凝らされている。

(制作：移民カルタ研究会)



【移民スゴロク】貸出可

日本人のブラジル移住および移住一般に関して学ぶことを目的としている。クイズもあり、遊びながら学べるようになっている。小学生高学年以上対象。



【紙芝居】貸出可

絵や写真、そしてわかりやすい言葉で書かれた物語を通じ、移住者の歴史的経験や心情、日本に暮らす日系人の生活や思いを共感的に理解することができる。全 4 種類。

(上段左) 海を渡った日本人

(上段右) カリナのブラジルとニッポン

(下段左) ハワイにわたった日系移民

(下段右) 弁当からミックスプレートへ



【いみんトランク】貸出可

国際的な人の移動や多文化共生、日本と世界とのつながりを学ぶ教材として、移民に関する授業や事前学習のサポートを目的に貸出を行っている。移住者の歴史や経験、貢献などにかかわるハンズオン教材として、以下の教材を用意。実際に見て、触れて、日本人移民の歩みや思いを肌で感じることで、より高い学習効果を生み出すことをねらいとしている。

■海外移住の歴史

- 1 野菜山車 (写真)
- 2 ハワイ移民労働着1
- 3 ハワイ移民労働着2 (シャツの肩幅 約42cm)
- 4 ハワイ移民労働着3 (シャツの肩幅 約42cm)
- 5 サトウキビ (模型)
- 6 弁当缶
- 7 ミックスプレート (模型)
- 8 笠戸丸 (写真)
- 9 真珠湾攻撃を伝える新聞
- 10 太平洋戦争終結を伝える新聞
- 11 野菜山車の唐辛子 (模型)
- 12 野菜山車のさつまいも (模型)



【ハワイ移民労働着：ハナハナウェア】



【ミックスプレート、弁当缶、サトウキビ】

13 野菜山車の大根(模型)

14 野菜山車の白菜(模型)

■われら新世界に参加す

15 移住斡旋ポスター

16 ジュート(麻)

17 コショウ

18 綿花

19 コーヒー

20 コーヒー用麻袋

21 主にブラジルで栽培された野菜(模型)

22 主にブラジルで栽培された富有柿(模型)

23 ブラジルのサクラ醤油

24 萬屋のフランスパン(模型)

25 主にブラジルで栽培された胡椒(模型)

26 主にブラジルで栽培されたカカオ(模型)

27 主にブラジルで栽培されたクプアス(模型)

28 主にブラジルで栽培されたカジュ(模型)

29 主にブラジルで栽培された楕円スイカ(模型)

30 日本から輸入した缶詰(鯛天麩羅)

31 日本から輸入した缶詰(カマボコ)

■日系人・日系社会の変遷をたどる / 日系人・
日系社会の現在

32 ハワイ盆踊り手ぬぐい

33 Tシャツ: ロコモコ(ハワイ)

34 ロコモコ(模型)

35 スパムセット(模型)

36 ハワイのビッグ・ファミリー(写真)

37 Tシャツ: 二世ウィーク1(アメリカ)

38 Tシャツ: 二世ウィーク2(アメリカ)

39 Tシャツ: 二世ウィーク3(アメリカ)

40 Tシャツ: 二世ウィーク4(アメリカ)

41 ブラジルのやぶれまんじゅう(模型)

42 ブラジルのあんぱん(模型)

43 ブラジルの和菓子(模型)

44 ブラジルの緑茶もち(模型)

45 ブラジルにある金澤製菓の外観(写真)

46 ブラジルにある金澤製菓の内部(写真)

47 ブラジルの干柿(模型)

48 ブラジルの米

49 南米神宮のお守りなど

50 ブラジルにある南米神宮(写真)



【真珠湾攻撃を伝える新聞】



【綿花】



【胡椒】



【カカオ】



【ブラジルの和菓子など】

【映像教材】貸出可

日本人の海外移住の歴史に関する映像教材。以下7種類は貸出を行っている。

- ① DVD「子供たちの百年 ブラジルに渡った少年少女は、今！」（制作：2008年、53分）
- ② DVD「アマゾンに挑んだ草創の日本人」（制作：2009年、85分）
- ③ DVD「夢と希望を運んだ船 ～移住船での暮らし～」（制作：2009年、5分）
- ④ DVD「100 年の鼓動 ―ハワイに渡った福島太鼓―」（制作：2011年、57分）
- ⑤ DVD「誰も知らない日系アメリカ人の歴史」※（制作：2013年、40分）
※本映像教材は『二つの祖国で・日系陸軍情報部』などで知られるすずきじゅんいち監督より寄贈を受けた。
- ⑥ DVD「Monica and Friends | 日本とブラジル友情の絆」（制作：2020年、11分）
※本映像教材はMauricio de Sousa Productions Japanより使用許諾を得た。
- ⑦ DVD「Raíces メキシコ東北部の日本人の子孫」（制作：2017年、17分）
※本映像教材はDahil Melgar氏等から使用許諾を得た。

【パスポート】

当館の概要、日本人の海外移住の歴史、日系人に関する解説のほか、ワークシート等を一冊にまとめた子ども用教材（パスポート）を用意している。児童・生徒はもとより一般来館者へも必要に応じて提供し、常設展示のねらいに即した見学の支援と、後日の振り返りが容易にできるよう工夫した。現在のパスポートは、2022年の常設展示リニューアルに伴いワークシートを改訂し、2023年2月に運用を開始したもの。日本人の海外移住とSDGsとの関係なども盛り込んだ内容となっている。



2) 教育プログラムの実施

教育機関の団体入館児童・生徒、学生を主な対象として、ガイダンス（概要説明）、パスポートや学習教材を使用したプログラム、ボランティアによる展示案内、質問事項への対応等を実施した。2025年度の教育プログラム実施件数は362件、総受講者数は10,596名となった。オンライン実施を含めた四半期毎の実施教育機関は以下のとおり。



【教育プログラム実績】

	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	年度計
件数	75	82	125	80	362
総受講者数	3,226	1,717	3,307	2,346	10,596

※件数は実際にプログラムを実施した数。同じ教育機関が複数回受講したケースも有り。

【教育プログラム受講教育機関】（順不同）

(a) 第1四半期

	団体名	団体数	受講人数
小学校	Horizon Japan International School、東京インターナショナルスクール、横浜市立三保小学校、横浜市立新橋小学校	4	347
中学校	神奈川県立平塚中等教育学校、相模原市立旭中学校、相模原市立谷口中学校、相模原市立中野中学校、座間市立座間中学校、サレジオ学院文芸部歴史班、仙台市立向陽台中学校、相馬市立中村第一中学校、鶴岡市立鶴岡第三中学校、富谷市立東向陽台中学校、二宮町立二宮中学校、平塚市立大野中学校、平塚市立神田中学校、福井市立大東中学校、福島県南会津町館岩中学校、横浜市立上の宮中学校、横浜市立篠原中学校、横浜市立中田中学校、横浜市立港中学校、横浜市立横浜吉田中学校、横浜市立本牧中学校、横浜市立潮田中学校、座間市立東中学校、相模原市立中央中学校、大阪市立東淀中学校	25	1,441
高等学校	岡山県立西大寺高等学校、学校法人浅野学園浅野高等学校、神奈川県立相原高等学校商業科、神奈川県立川崎高校定時制、第一学院高等学校、千葉明德高等学校、神奈川県立磯子工業高等学校定時制	7	326
大学・専門学校	神奈川大学みなとみらいキャンパス、国立大学法人お茶の水女子大学グローバル協力センター、埼玉大学大学院人文社会科学研究科大茂矢ゼミ、相模女子大学人間社会学部社会マネジメント学科、清泉女子大学、東海大学教養学部人間環境学科万城目ゼミ、東京科学大学環境・社会理工学院、東京都市大学環境学部、文教大学国際学部国際理解学科孫美幸ゼミナール、武蔵大	13	179

	学社会学部アンジェロ・イシゼミ、横浜国立大学国際プログラムフィールドワーク、上智大学総合人間科学部看護学科、東海大学人文学部人文学科		
その他	ALEX MARQUEZ LEARNING TOUR JAPON、個人グループ（シアトル）、JICA協力隊課題別派遣前訓練日系社会講座、JICA日系社会研修オリエンテーション、JICA日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）、JICA日系社会次世代育成研修（大学生招へいプログラム）、JICA社会人採用職員、JICA地球環境部、エムオーツーリスト、海上自衛隊練習艦隊、神奈川県警察学校（複数回）、県教育委員会子ども教育支援課、2025 Friends & Family Tour、RENブラジル（ブラジル）、玉川史談会、千葉県曹洞宗青年会、ドミニカ共和国大使、調査団グループ（ボリビア）、松本市民生委員・児童委員協議会、横浜市観光協会、よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト中区審査会、外務省領事局（研修）、財務省、外務省関係者	26	933
合計		75	3,226

(b) 第2四半期

	団体名	団体数	受講人数
小学校	横浜市立青葉台小学校、横浜市立公田小学校、横浜市立茅ヶ崎小学校	3	210
中学校	横浜市立田奈中学校、横浜市立南高等学校附属中学校、藤沢市立第一中学校、森村学園中・高等部、横浜サイエンスフロンティア高等学校・附属中学校、厚木市立林中学校、岡崎市立竜海中学校、東京都立久我山青光学園視覚障害者教育部門中学部、千葉大学教育学部附属中学校、岡崎市立矢作中学校	10	220
高等学校	横浜市立横浜商業高等学校、あずさ第一高等学校町田キャンパス、白梅学園高等学校、法政大学国際高等学校、県立横浜国際高等学校、横浜隼人高等学校、横浜共立学園高等学校、湘南学園高等学校インターアクトクラブ、品川女子学院、東京都立稔ヶ丘高等学校、富士市立高等学校、第一学院高等学校横浜キャンパス、湘南工科大学付属高等学校	13	457
大学・専門学校	北里大学看護学部、東海大学ほか公開セミナー参加者、明治大学情報コミュニケーション学部島田ゼミ、東京都市大学環境学部グローバルCLILプログラム、横浜市立大学国際教養学部坪谷ゼミ、京都産業大学、東京大学国際教育推進課、明治大学、公立大学法人山梨県立大学（PENTAS）、公立大学法人名城大学国際学部国際文化学科、国際基督教大学・ヨンセイ大学（韓国）、群馬県立女子大学、多摩大学グローバルスタディーズ学部、成蹊大学法学部、お茶の水女子大学文教育学部教育科学コース	15	303
その他	権田坂境木自治会壮年クラブ、大志万学院（ブラジル）、アルゼンチン・メキシコ日系社会ビジネスリー	41	527

	ダー招へいプログラム、個人グループ（ブラジル）、国際協力サポーターズ（ICoS）、アルモニア学園（ブラジル）、ブラジル日本語センターふれあい日本の旅、駐日ボリビア大使（臨時代理大使）、川崎市小学校外国語・国際教育研究会、横浜市民局、横浜市資源循環局、横浜市監査事務局財務監査課、国立女性教育会館、JICA海外協力隊（神奈川県表敬対象者）、JICA九州・福岡県日系社会連携調査団、JICA横浜教師海外研修、JICA横浜イベント参加者、JICA能力強化研修、JICA日系社会研修オリエンテーション、JICA中南米部（招へいプログラム）、JICA関係者（複数回）、外務省外国報道関係者招へい（南米グループ）、外務省ソーシャルメディア発信者招へい、外務省招へい（次世代日系人指導者）、外務省招へい（多層的ネットワーク構築事業）、Panda Tokyo & Yokohama Labor day Getaway、市原市市津地区民生委員、NPO法人JECK、公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）インターン、株式会社JA北海道情報センター、埼玉県看護協会南部支部、外務省領事局関係者（複数回）、カナダ日系文化センター・博物館（NNMCC）関係者、北米報知社、日系人・外国につながる子どものバスツアー、ブラジル日本架け橋交流プロジェクト（ブラジル）		
合計		82	1,717

(c) 第3四半期

	団体名	団体数	受講人数
小学校	横浜市立西柴小学校、横浜市立新吉田第二小学校、荏崎市立荏崎北西小学校、CGKインターナショナルスクール（小学校）、横浜市立東山田小学校、横浜市立東品濃小学校、横浜市立杉田小学校、横浜市立鴨志田緑小学校、平和学園小学校、渋谷区立笹塚小学校	10	675
中学校	佐倉市立井野中学校、千葉市立更科中学校、静岡北中学校、相模原市立清新中学校、杉並区立松ノ木中学校、練馬区立大泉中学校、相模原市立緑が丘中学校、厚木市立東名中学校、茅ヶ崎市立鶴嶺中学校、千葉県市原市立有秋中学校、新潟市立木戸中学校、足立学園中学校、藤沢市立大庭中学校、藤沢市立第一中学校、藤沢市立第一中学校、横浜女学院中学校、北区立桐ヶ丘中学校	17	591
高等学校	ホライゾンジャパンインターナショナルスクール（日本語学習者クラス）、新潟県立新津高等学校、東京都立大泉特別支援学校（高等学校）、跡見学園高等学校、目黒日本大学高等学校通信制課程、山形明正高等学校、ホライゾンジャパンインターナショナルスクール（高等学校）、久留米市立久留米商業高等学校、熊本県立八代清流高等学校、横須賀学院高等学校ボランティア部、熊本県立鹿本農業高等学校、みなと総合高等学校	12	491

大学・専門学校	大正大学、東京都立大学（留学生）、目白大学社会学部地域社会学科地域・ひとづくりコース、鎌倉女子大学初等部、富山高等専門学校国際ビジネス学科、城西国際大学市山ゼミ、東洋大学国際学部国際地域学科、上智大学、大妻女子大学、昭和女子大学英語コミュニケーション学科池田ゼミ、神奈川大学国際日本学部国際文化交流学科文化交流コース、中央大学ゼミ生、創価大学津山ゼミ、上智大学短期大学部、共立女子大学、山梨県立大学看護学部国際看護学	16	389
その他	香川県総務部知事公室国際課、和歌山県議会議員、中南米日系社会との連携調査団（水産・食品関連、ペルー派遣）、横浜市鶴見区役所、富山市北商工会工業部会、JICA日系社会研修オリエンテーション（複数回）、横浜市中区役所、全カナダ日系人協会（NAJC）、JICAインターン国内拠点訪問プログラム、横浜金沢シティガイド協会、横浜市大探査会OB会、JICA関係者、磯子区根岸地区保健活動推進委員会、湘南倶楽部（OB会）、佐賀県町村会、横浜南部郵便局長OB会、浜北地域自治会連合会、在バンクーバー日本総領事及び日系センター博物館館長ほか、個人グループ（ハワイ）、神奈川県警察学校、外務省外国報道関係者招へい（ブラジル）、磯子区屏風ヶ浦地区保健活動推進委員会、和歌山県教諭グループ、横浜市市民局、横浜市水道局（複数回）、横浜市財政局（複数回）、横浜市中区役所、横浜市磯子区役所、横浜市南区役所、横浜市南区民生委員児童委員協議会、沼津市民生委員児童委員協議会高齢者福祉協会、日本語教室「わをん」、個人グループ（ブラジル）、大阪府海外移住家族会、JICAインターン生（複数回）、外務省研修所・第5部研修員、駐ブラジル大使ほか、農水省日系連携事業招へい者（ポリビア）、高崎市城東地区区長会、ボーイスカウト横浜第8団カブ隊、教王院、JICA日系社会研修オリエンテーション（複数回）、Arts & Crafts Tour、横浜市政経営局、個人グループ（複数組）、JICA日系社会研修日系資料館運営改善に向けた資料の有効活用コース（複数回）、WUB関西、IVIS市川ボランティア通訳の会、第29期マンスフィールド研修員（米国行政官）、JICA中南米部南米課インターン生、保土ヶ谷東部地区社会福祉協議会、町田市国際交流センター外国人相談部会、外務省中南米局関係者、国連IOM駐日事務所関係者、JICA海外協力隊（神奈川県表敬対象者）、ハワイ東北のんびりイルミネーションツアー、外務省在加日系人リーダー招へいプログラム、外務省対日理解促進交流プログラムカケハシプロジェクト（JACL）、JICA関係者（複数回）、磯子区岡村地区保健活動推進委員会、JICA協力隊課題別派遣前訓練日系社会講座、キッズベースキャンプ武蔵小杉	70	1,161
合計		125	3,307

(d) 第4四半期

	団体名	団体数	受講人数
小学校	川崎市立宮前小学校、Tokyo West International School（小学校）、川崎市立東住吉小学校、川崎市立井田小学校、横須賀市立沢山小学校、横浜市立本牧南小学校、CGKインターナショナルスクール（小学校）	7	485
中学校	三原市立第二中学校、練馬区立光が丘第一中学校、八王子市立打越中学校、藤沢市立湘南台中学校、厚木市立睦合東中学校、京都市立西京高等学校附属中学校、茅ヶ崎市立第一中学校、八王子市立第五中学校、世田谷区立船橋希望中学校、葉山町立南郷中学校、世田谷区立三宿中学校、町田市立鶴川中学校、大田区立蒲田中学校、東京都立立川国際中等教育学校、目白研心中学校、藤沢市立御所見中学校、江戸川女子中学校、厚木市立睦合中学校、新潟市立上山中学校、新発田市立川東中学校、町田市立鶴川中学校	21	1,065
高等学校	法政大学国際高等学校、学校法人三幸学園 飛鳥未来高等学校 横浜関内キャンパス、第一学院高等学校、キミノ高等学院（高等学校）、神奈川県立神奈川総合産業高等学校	5	107
大学・専門学校	早稲田大学政治経済学部高橋百合子ゼミ、東洋学園大学グローバル・コミュニケーション学部、東海大学国際学部、東海大学、慶応義塾大学（SFC）、たまプラーザ看護学校、城西国際大学、南山大学人文学部日本文化学科岩崎典子ゼミ	8	93
その他	調布市北部公民館成人学級MSG（Multicultural Study Group）、乃村工藝社沖縄営業所、中南米・北米子弟研修、JICA日系社会次世代育成研修（高校生招へいプログラム）、市町人権教育連絡協議会学校教育部会（浜松市教育センター）、ボリビア大使ほか、JICA関係者（複数回）、JICA日系社会次世代育成研修（中学生招へいプログラム）、横浜市政経営局、JICA日系社会研修オリエンテーション、駐日パラグアイ大使ほか、JAセレサ川崎チャットの会、American Renaissance Academy、磯郷土史クラブ、IVIS市川ボランティア通訳の会、外務省招へいブラジル連邦上院議員ほか、米国国務省日本語研修所（JLTC Yokohama）、横浜市都築区役所、外務省国際協力局関係者、Panda Tokyo-Yokohama Festival Celebrations & Sumo Club Experience、横浜市国際交流協会（YOKE）インターン、Juntos!!対日理解促進交流プログラム（外務省招へい者）、GREEN×EXPO 2027関連講演会参加者、平塚市教育支援室くすのき、JICA国内機関交流会参加者、神奈川県警察学校、NPO日本ペルー共生協会神奈川AJAPE（アハペ）、クラブツーリズム横浜事業センター、外務省在米日系人リーダー招へいプログラム、JICA横浜長期研修員、磯子区屏風ヶ浦地区	39	596

	保健活動推進委員会、協力隊（神奈川県）、日本財団 日系スカラーシップ事業留学生、ボリビア・開発企画 大臣ほか（外務省招へい）、個人グループ、学研山崎 小前教室・イトーヨーカドー大船教室		
合計		80	2,346

【プログラム例 社会人（行政職員等）向け（1時間）】

- ① 担当職員による移民排斥運動など人権に関連する資料の説明
- ② ガイド付き資料館見学（またはガイドシートを用いた自由見学）

【プログラム例 大学生向け（1時間）】

- ① 担当職員による資料館概要説明（目的別）
- ② ガイド付き資料館見学

【プログラム例 高校生向け（1時間）】

- ① フォトランゲージを活用したワークショップ
- ② 担当職員による資料館概要説明
- ② パスポートを活用した資料館見学

【プログラム例 小・中学生向け（1時間）】

- ① 担当職員による資料館概観説明
- ② パスポートを活用した資料館見学

【プログラム例 小学生低学年以下向け（1時間）】

- ① 学習教材のカルタや紙芝居を使用した体験学習
宝探しワークシートを活用した資料館見学

3) 教育プログラム関連業務

(a) インターン受入

以下、計7名のインターン生の受入を行った。

- ・ JICA インターンシップ・プログラム 2名
- ・ 大正大学社会共生学部公共政策学科 2名
- ・ 桜美林大学リベラルアーツ学群 3名

インターン生は、教育プログラムの補助や来館者受入における改善の提案、教育プログラム用資料や広報記事の作成等を行った。

(b) 「おうちミュージアム」ページ

当館ウェブサイトでは、自宅で展示や歴史を学べるコンテンツ「おうちミュージアム」を公開中。主な内容は、日本人の北米・中南米への移住の歴史である。これまでのインターン生発案の企画も含め掲載しており、子どもから大人まで、家族や友人と一緒に楽しく学べるプログラムとなっている。

【アニメで移住を見てみよう！（対象年齢：小学生～）『Monica and Friends I 日本とブラジル友情の絆』】

ブラジルの国民的アニメ「モニカ&フレンズ」で、日本人のブラジルへの移住の歴史と、日本とブラジル両国の協力関係について解説している。日本語版に加えポルトガル語版もあり、2言語での学習が可能である。



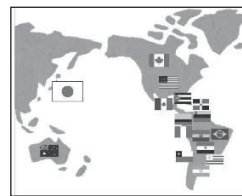
【おうちでパスポートを発券してみよう！！（対象年齢：小学生～）】

幕末から明治時代と明治時代から大正にかけてのパスポートを画像データにて再現し、自宅にしながら当時のパスポートの変遷を学ぶことができる。また、再現したパスポートで「渡航者は誰だ？ゲーム」も用意し、遊びを取り入れた学習機会も提供している。



【ぬりえで学んでみよう！（対象年齢：5歳～）】

日本人が移住した15か国の国旗の塗り絵をダウンロードし、塗り絵を通して日本人が移住した国を学ぶことができる。また、ダウンロードサイトには各国の面積や人口、日本人移住開始年などの基礎情報も掲載している。



【ミックスプレートってどうやって生まれたの？ぬりえとアニメーションで学んでみよう！】

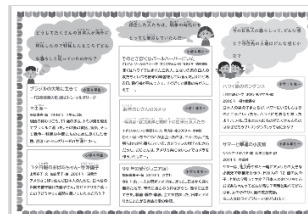
常設展示場に展示している「ミックスプレート」を塗り絵化。当館制作の紙芝居『弁当からミックスプレートへ』のアニメーション視聴と塗り絵を通して、ひとつのお皿に様々な国のごはんが乗っているハワイの代表的料理「ミックスプレート」の成り立ちを学べるようにしている。



【移住をテーマにした本を読んでみよう（対象年齢：小学生～）】

北・中南米へ移住した日本人の歴史や、日系人の暮らしがわかる絵本や小説を紹介している。

対象年齢別に小学生以上と中学生以上があり、年齢に適した書籍を知ることができる。ここに掲載されている本はすべて当館閲覧室に所蔵されている。



【日本人移民関連モニュメントマップ / 日本人の海外移住と横浜開港歴史MAP】

多くの移民を送り出してきた横浜には、日本人海外移民のための船が出発した港や宿泊施設があり、さらには移住地との友好関係を象徴するモニュメントが建てられている。これらの日本人移民関連モニュメントを記した地図を用いることによって、日本人移民の足取りをたどることができる。

マップは「対象年齢：小学校高学年～」と「対象年齢：中学生以上」の2種類があり、後者は日本語版のほかにスペイン語版とポルトガル語版も提供している。



【クイズに挑戦！海外に移住した人の生活を想像してみよう！（対象年齢：小学生～）】

日本人の海外移住の歴史をクイズ形式で学べる。当館に再現された雑貨店「萬屋（よろずや）」の展示をもとに構成。店内の売り物や移住者が欲しかったものをクイズを通して考えることで、当時の人々の暮らしや苦労をリアルに想像できる内容となっている。



4) ボランティア管理運営

(a) ボランティア活動

当館では、常設展示場での展示案内をはじめとするさまざまな分野でボランティアが活動している。主な活動内容は、展示案内、入館者対応、教育活動の補助、イベント対応など。2025年度末時点で、登録者数は49名（うち10名一時活動休止中）。なお、展示案内ボランティアの配置状況（延べ人数）は以下のとおりとなっている。

- ・第1 四半期：267人配置
- ・第2 四半期：281人配置
- ・第3 四半期：283人配置
- ・第4 四半期：266人配置（すべて延べ人数）

(b) ボランティア連絡会議の実施

ボランティア連絡会議を開催し、情報の共有および今後の活動についての意見交換を行った。2025年度は以下の通り実施した。

- ・第1回 5月26日（月）開催 参加者：24名（対面・オンライン併用開催）
- ・第2回 8月14日（木）開催 参加者：28名（対面・オンライン併用開催）
- ・第3回 12月15日（月）開催 参加者：15名（対面開催）
- ・第4回 3月16日（月）開催 参加者：13名（対面開催）

なお、第3回連絡会議では「避難訓練（地震・津波を想定）」を合わせて実施。また、第4回連絡会議では、資料館ボランティア向けの研修として、当館学術委員の赤木妙子氏（目白大学教授）による講義「移民書翰の史的価値とミュージアム/アーカイブ」を実施した。

(3) 広報活動

1) 広報紙「海外移住資料館だより」発行

当館広報紙として「海外移住資料館だより」を、2025年度は2回発行。企画展示の内容などをテーマに、展示内容および資料館の活動などを紹介した。発行部数各3,000部。

主な配布先は、都道府県国際交流課および国際課、指定都市国際交流課および国際課、教育委員会や各国大使館、図書館、博物館、国際教育研究協議会加盟校、外国人集住都市の市区町村および国際交流協会など、約400件。その他、常設展示場、閲覧室等で随時配布している。また、当館HPでもバックナンバーを含め閲覧可能である。

No.	発行	コンテンツ
64	2025年 8月	特集 Broken Promises 破られた約束ー太平洋戦争下の日系カナダ人ー
65	2026年 2月	特集 追憶 絵画からたどる日系アメリカ人の歴史と美術



No.64



No.65

2) 一般広報

JICA 横浜が行う広報事業等と連携しつつ、当館の入館者数増を目指し、地域で行われるイベント等への参加、広報媒体への掲載など、以下のとおり実施した。

横浜みなとみらい21主導の近隣館連携事業「Art & Museum」/神奈川県立歴史博物館主導の近隣館連携事業「ミュージアム・ミッション」/横浜市クルーズ・フレンドリー・プログラム/歩く地図 鎌倉・横浜散歩/東京散策乗物ガイド/横浜市観光協会「横浜観光バリアフリー情報」ほか/横浜市民ギャラリー「ヨコハマ・ギャラリー・マップ」/横浜市観光情報サイト（横浜トラベルインフォスポット）/タウンニュース/みなとみらいLOVEウォーカー/GREEN×EXPO 2027教育旅行用PR媒体/情報誌「定年時代」/観光案内所（横浜駅・桜木町駅）等

3) 開催広報

JICA横浜が行う広報事業等と連携しつつ、当館常設展示および企画展示、公開講座、その他イベントに関する広報活動を積極的に行うため、広報素材作成と頒布、表示類の作成、プレスリリースの配信等、適宜開催広報を行った（朝日新聞／神奈川新聞／東京新聞／日本経済新聞社／読売新聞／共同通信社／NHK／TVK／JCOM／記者クラブ／国際交流協会／日本新聞協会／海外日系新聞放送協会／ブラジル日報／登竜門／公募ガイド／日本博物館協会HP／ヨコハマ・アートナビ／神奈川県博物館協会WEBサイト／東海5県ミュージアムおでかけガイド等）。また近隣博物館、商業施設、宿泊施設等へ、広報物の掲出・設置等依頼した。

4) 海外移住資料館「友の会」

海外移住資料館「友の会」は、「日本の海外移住の歴史」や「日系人」、「多文化共生」などのテーマに興味・関心のある方々へ関連情報を発信するとともに、当館利用者数の増加を図ることを目的に設立された。

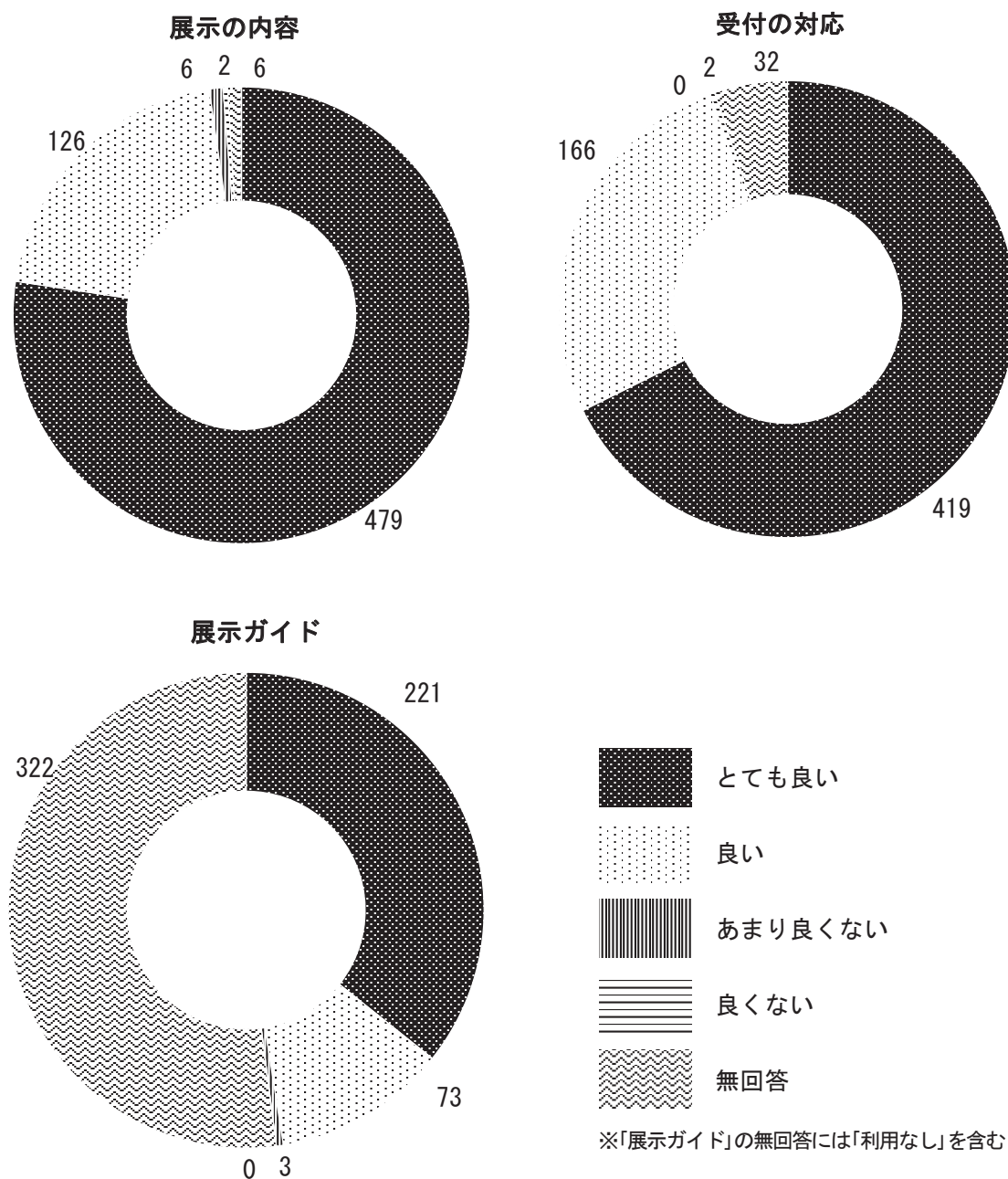
活動内容は当館で実施する事業やイベントの案内、海外移住の歴史や日系人、多文化理解といったキーワードに関連する情報の発信等となっている。

情報発信ツールとしてメールマガジンを活用し、2025年度は計13回（月1回の配信および号外1回）を配信した。毎月の配信では、コラム「来館者の声シリーズ」（Vol.1～12）を連載した。

「友の会」会員登録者数：2,035名（2025年度末時点）

(4) アンケート調査

当館の常設展示入館者を対象に利用者アンケートを実施。設問は「展示内容について」「展示ガイドによる解説について」「受付対応について」等を設定した。回答総数は 619 件。4 段階評価のうち、すべての設問において有効回答（無回答を除く）の 9 割以上が「とても良い」「良い」であり、高い評価を得た。



2. 資料収集・整備

(1) 資料等情報整備

1) 資料の受入・収集

日本人の海外移住および日系社会に関連する図書類、新聞、標本類など各種資料を、寄贈、購入、取得等の方法で収集した。

2025 年度受入件数は 538 件。(図書類 263 件、新聞 64 件、標本類 211 件)

主な資料は、海外で発行されている日本語新聞の原紙、国内外で刊行された移住関連の書籍類、ドミニカ共和国の一世へのインタビュー映像・音声、ハワイ日本人移民の旅券、カナダの日系人補償に関する文書、ベネズエラ日本人移住者関係文書、戦前戦後ブラジル・パラグアイへの移民・移住者送出に関する標本・文書・写真・映像・書籍等である。

2025 年度受入件数

	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	年度計
取得	32	28	29	9	98
購入	8	2	1	5	16
寄贈	67	54	83	220	424
移管	0	0	0	0	0
寄託	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
合計	107	84	113	234	538

2) 資料の整理

(a) 資料の整理・登録作業

2025年度に受入した資料および前年度までに受入をし、未整理となっていた資料について、整理、登録を行った。

作業件数：700件（図書類412件、新聞62件、標本類226件）

2025 年度登録件数

	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	年度計
取得	32	28	57	22	139
購入	8	3	5	31	47
寄贈	146	122	145	101	514
移管	0	0	0	0	0
寄託	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0
合計	186	153	207	154	700

(b) 伊藤一男関連資料の整理作業

伊藤一男氏（元読売新聞記者、シカゴ新報東京支局長、北米報知東京支社長、『北米百年桜』著者）のご遺族より寄贈を受けた資料について、公開用目録作成、図書登録などの整理作業を実施した。

寄贈資料は、主に北米日本人移住者に関するものであり、図書、新聞、写真、書簡等、多岐にわたる。

・公開用目録作成作業

歴史資料等保有施設として義務付けられている一般の閲覧に供することを目的とした目録（公開用目録）作成作業を、前年度に引き続き、実施した。

具体的な作業としては、これまで実施してきた予備整理作業において作成した概要入力一覧の情報をもとに一資料に一番号を付し、それぞれに資料名、日付、形態、サイズ、数量、状態などを詳細に記録した。それにより、目録の上で、閲覧者が資料を確認できることになり、不要な出納を避けることができる。次年度も、資料の特性にあわせて、記入項目を適宜、追加修正しつつ、引き続き、作業を実施する予定。

※「公文書等の管理に関する法律施行令」第六条第二項

当該資料の目録が作成され、かつ、当該目録が一般の閲覧に供されていること。

作業件数 75 件（資料群の数）、4,426 点（資料点数）

・図書登録作業

受入時のまとまりを尊重し、整理作業を進めてきた伊藤一男資料は、文書や写真等と図書類、新聞類が混在して、ひとつの資料群をなしているものがほとんどであるが、今後の目録公開、閲覧提供を見据えて、図書類として利活用できるものについては、資料の原秩序を尊重（記録）しつつ抜出する作業を行ってきた。これらの図書類について、既に当館図書類目録に登録されているか確認をし、複本が3冊に満たないものについて、目録登録する作業を実施した。

作業件数：150件

(c) 図書資料等の目録更新作業

既に登録されている図書資料等を対象とした書誌情報の修正、不足情報の追加、複本確認等の作業を実施した。

作業件数：420件

(d) その他

上記整理作業実施に伴う格納場所確保のため、収蔵庫各所において、資料の棚移動作業を実施した。また、既に格納済みの一部資料について、保管方法および保管場所の見直し、資料の整理作業を実施した。

3) 収蔵環境の整備

(a) 特別清掃

常設展示場、一般収蔵庫、写真特殊収蔵庫、情報処理室、閲覧室、バックヤード、ボランティア室において、専門業者へ依頼をして、特別清掃作業を実施した。

(b) 収蔵庫等の環境調査

収蔵品を保管している一般収蔵庫、写真特殊収蔵庫、閲覧室書庫において、各種資料に適切な保存環境について確認、検討することを目的に、目視確認、温湿度測定を実施した。

また、資料の生物被害を防ぐために、常設展示場、企画展示室、一般収蔵庫、写真特殊収蔵庫、情報処理室、バックヤード、閲覧室において、専門業者へ依頼をして、害虫生息調査を実施した。

(2) 情報システム

1) 情報検索システム

(a) 情報検索システム運用

閲覧室で実施される各種レファレンスサービスと連携して、当館の収蔵資料について情報を整備し、情報検索システムを通じて館内、館外へ検索サービスを提供した。2025 年度末時点登録数：27,724 件（うち図書類：25,166 件、標本類：2,558 件）。

URL：<https://jommdms.jica.go.jp/k-search/>

(b) 登録データの整備

既に登録されている書誌情報の修正、不足情報の追加等を行った。また、図書の複本処理を行い、データを統合させた。登録情報の照合・確認・修正件数は420件。

2) 海外移住資料館 web ページコンテンツ

(a) 移住資料デジタルネットワーク化プロジェクトサイトの維持・管理

当館では、日本国内および世界各国の日本人の海外移住をテーマにした博物館・資料館等と連携し、当館がそれらのハブ機能としての役割を持つプロジェクトをすすめている。また、このプロジェクトでは、当館の情報システムを活用し、写真・資料のデジタル・アーカイブおよびインターネット上の資料展示や横断的な資料検索等を実現することで相互の移住資料が有効活用されるネットワークをめざしている。

現在公開中のプロジェクトサイトは以下のとおり。

- ・ 広島市デジタル移民博物館
URL：<https://jommdms.jica.go.jp/fmp/dmshiroshima/map/>
- ・ オキナワボリビア歴史資料館
URL：<https://jommdms.jica.go.jp/fmp/okinawabolivia/map/>
- ・ アルゼンチン日本人移民史
URL：<https://jommdms.jica.go.jp/fmp/fana/map/>
- ・ ペルー日系人協会 移住資料デジタルネットワーク化プロジェクトサイト
URL（デジタル展示日本語）：https://jommdms.jica.go.jp/fmp/apjmuseo/map_jp/
URL（デジタル展示スペイン語）：https://jommdms.jica.go.jp/fmp/apjmuseo/map_es/
URL（デジタル展示英語）：https://jommdms.jica.go.jp/fmp/apjmuseo/map_en/
URL（移民データベース日本語）：<https://jommdms.jica.go.jp/jp/>
URL（移民データベーススペイン語）：<https://jommdms.jica.go.jp/es/>
- ・ 中南米移住地記録写真集 1964
URL：<https://jommdms.jica.go.jp/fmp/1964top/index.html>



3. 研究活動

(1) 学術研究プロジェクト

学術委員会において企画・検討された以下の6プロジェクトについて、今年度の活動を行った。
学術研究プロジェクトの研究概要は以下のとおり。

1) 日加関係において日本人移民・日系人が果たした役割

【概要】 本プロジェクトでは、「日加関係において日本人移民・日系人が果たした役割」のテーマで、外交史料館や新たに国会図書館移民資料室など類縁機関の所蔵史料および、新たに判明した、戦後、日本に「送還」帰還した日系人生存者（80-90才代）※ に対する聞き取りを通じて個人資料の発掘に努力する。そして、それらの史資料を使用して、日加関係における日系人・日本人移民に関し、これまで以上に視野を広げ、扱う時期を長くした（戦前から戦後へ繋がる）テーマでの研究を深めたい。

これまで本プロジェクトが行ってきた戦後の日系カナダ人および戦後の日本人カナダ移住に関する研究から、戦前との断絶面だけではなく戦後への継続面も見えてきた。よって、今後は、カナダ政府の対日本人移民政策の戦前から戦後への一貫性や、戦前からの日本人移民が、戦後の日本人カナダ移住において果たした役割等にも注目し、戦前からの日加関係の推移の中で、研究を深めたい。

その成果を移住資料館『研究紀要』等で発表するとともに、収集した史料を今までの寄贈史料に加えることによって、広く研究に資するための更に充実した内容にしたい。
※最近のカナダ・ブリティッシュ・コロンビア州政府日系カナダ人補償プログラムによる、「日系カナダ人生存者健康福祉基金」への助成金申請を通じて、新たに所在が判明した日本在住の生存者。

【プロジェクトリーダー】 飯野正子（津田塾大学理事・名誉教授）

2) 「帰国」をめぐる個人史 ー祖国・故郷・家ー

【概要】 日米戦争を挟む、世界恐慌からはじまる1930年代から戦後高度成長期へ向かう1950年代における、日本人移住者および二世層の「帰国」をめぐる言説・意識と実際の行動について、一次史料に基づく史的事実を再構成する作業に依拠する個人史に視点を据えて分析する作業をメンバーがそれぞれ進め、その途中経過について順次報告し、プロジェクトテーマにまとめあげてゆくための議論を深める。

【プロジェクトリーダー】 柳田利夫（慶應義塾大学名誉教授）

3) 出移民・入移民の構造変容に関わる研究

【概要】 本プロジェクトは、日本において進行する出移民・入移民をめぐる構造変容をどのように理解し、さらにそこで得られた知見を将来的に海外移住資料館の展示にどのように反映するのか検討することにある。

日本は近代以降、移民送出国であったが、とりわけ1980年代以降、その様相が変わり、移民受入国へと変化し始めた。こうした構造変容には、日本の国際的な位置の変化

と資本主義経済の展開が介在している。この構造変容の過程に着目することで、人の移動に関わる経済的な操りの糸と、これと連動する制度・政策の動きが浮かび上がる。本研究はこの構造変容とそれを取りまく諸要因、ならびに構造変容の諸影響を、抽象論としてではなく、その過程を生きた人々の営みに着目することで、生活史の視点から分析し、そこから構造変容に関わるマクロな様相を見通そうとするものである。

本研究では、この構造変容を生きた人々に関係する個人・コミュニティ・行政の資料調査、および関係者からの聞き取り調査を行う。具体的には、次の二つの局面に焦点を当てる。

まずひとつは、1990年代以降の、いわゆる「外国人労働者」の日本への流入過程に着目し、日系人の日本への出稼ぎ・定住をめぐる生活史を中心課題として、資料調査と聞き取り調査を行う。その上で、日系人以外の「外国人労働者」が諸制度の下で増加し、いわば多様化が進む今日の状況に即して考えたとき、日系人の日本への出稼ぎ・定住の経験との連続性と断絶面の双方を分析するべく、必要に応じて調査対象を拡大する。

もうひとつは、この構造変容と対照させる形で、戦前に日本から海外へ渡航した「移民」が、その過程で獲得した知見を活かしながら、後年に移民送出や植民政策に関わったケースに着目する。この対象事例を置くことにより、移住を取り巻く諸状況に対する理解を豊富化するとともに、移民史をめぐる、これを規定する国際関係や資本主義の変容と関わらせて置き直し、移民の送出国から受入国への変容までを含めた通史的な理解の創出につなげることを試みる。

【プロジェクトリーダー】原山浩介（京都大学大学院教授）

4) 1940～50 年代の北米・ハワイにおける日本人移民の経験を再考する

【概要】 本プロジェクトでは、前プロジェクト「海外への移動・移送と絆の視点からみるグローバルヒストリー」で得られた手法と考察を基盤とし、太平洋戦争中と戦前・戦後の時代を北アメリカやハワイで経験した日本人移民・移住者とその子孫に関する研究調査を発展させる予定である。前プロジェクトでは、日本の開国前も視野に入れることで、日米関係や日本人移民に起こった事象にみられる「絆」を従来の研究よりも長いスパンで、より広い見地から捉え直すことを試み、成果の一部を『研究紀要』に投稿済み、もしくは今年度、投稿予定である。こうした蓄積をもとに、本プロジェクトでは太平洋戦争を中心とする前後の時代を従来の研究よりも長く広く捉えて、日本人移民・日系人の経験に光を当て直す。これは、日米関係史、日本人移民史、北アメリカ・ハワイ研究において蓄積のある飯野正子と桑井輝子の研究を基盤としつつ、アメリカ合衆国の日本人移民・日系人に対する「強制収容」とその前後を新たな視点で再考する試みである。国際関係の危機という制限された状況における人びとの工夫や、多様な活動の創出にかかわる交渉、そしてその限界を前後の連続性や他との関係性の視点から見直すことで、従来の研究では看過されてきた歴史事象を発見し、新たな知見を得ることが期待される。それは同時に、国際関係の悪化が危惧される現代においてはとくに意義深い研究になると考えている。具体的には、アメリカにおける強制収容政策に対する一連の議論の見直し、収容所内外の日本人移民・日系人の日常実践、日本人移民による戦後の日本救済活動などから研究調査を開始したいと考えている。

【プロジェクトリーダー】小澤智子（武蔵野美術大学教授）

5) 多文化共生社会に向けた教材化の可能性と魅力 — 人の移動と生成された固有の文化からの学びを通して—

【概要】 海外から日本に移り住む人々が増加している現在、教育分野における多文化共生社会に向けた取り組みは喫緊の課題である。多文化社会において、「平等の権利を伴った生活形態の共存とは、すべての市民が差別を受けることなく、ある文化的伝統の世界の内部で成長し、また自分の子どもたちをそのなかで成長させる機会を保障することを意味する」(ユルゲン・ハーバーマス)といわれる。このような機会保障のためにも、多様な文化から学び、教育分野における多文化共生社会に向けた取り組みに活かして行くことは有意なことと考えられる。

そこで本研究では、「人の移動」に伴い継承されている多様な文化から学び、尊重しつつ教材化の可能性と魅力を探り、「差別のない多様で豊かな文化を持つ活力ある社会」を築くための一助とすることを目的とする。

3年間を通して、北海道におけるアイヌ文化、小笠原諸島における南洋踊り等、固有の文化継承の場と関連する施設等を視察し、得られた知見を論文としてまとめる。さらに、教材化の可能性と魅力を探り、「差別のない多様で豊かな文化を持つ活力ある社会」を築くための一助としていく計画である。

【プロジェクトリーダー】 福山文子（専修大学准教授）

6) 海外移住資料館『学習活動の手引き』（第三訂版）の普及・実践及び教材開発

【概要】 JICA 横浜海外移住資料館は、開館当初より日本の若い世代に海外移住の足跡や役割について理解を深めてもらうことを目的に、同館の展示や資料を活用した指導者向けの『学習活動の手引き』の作成を行ってきた。2022年度の海外移住資料館リニューアルに伴い、2022年度～2023年度の学術研究プロジェクト（研究代表 森茂）において「海外移住資料館のリニューアル展示を活用した『学習活動の手引き』の改訂」を行い、プロジェクトの成果として『学習活動の手引き（三訂版）』を発行した。

本『学習活動の手引き（三訂版）』は、主に学校現場の先生方の資料館見学や授業づくりの参考になるように、海外移住資料館の展示・資料、およびカルタや紙芝居などの教材を活用した活動案を構想している。本プロジェクトでは、『学習活動の手引き（三訂版）』を、学校での授業はもとより、NGO/NPO 関係者などの授業・ワークショップでの更なる活用・普及を目指す。

さらに、2022～2023年度の学術研究プロジェクトの懸案事項であった海外移住資料館展示を活用したデジタル教材およびアナログ教材の開発についても検討・作成する。

【プロジェクトリーダー】 中澤純一（東京未来大学講師）

(2) 研究紀要の発行

当館で行われた学術研究の成果として、『研究紀要 第 20 号』を発行した（2026 年 3 月発行）。論文題目等は以下のとおり。

【特別寄稿】

われら新世界と日本社会に参加す

国立民族学博物館名誉教授 / 海外移住資料館学術委員 中牧弘允

【論文】

先住民アイヌの「忘却された〈痛み〉」・権利・表象に関する授業へ

— 一人の移動が示す多様な思考と生き方から —

専修大学准教授 福山文子

帝京大学教授 中山京子

第二次世界大戦後の日本人カナダ移住の一樣相

— 在日カナダ移民事務所開設をめぐる —

東京外国語大学兼任講師 木野淳子

【第六回 JICA 海外移住「論文」および「エッセイ・評論」論文部門 最優秀賞】

秋深し五七五交わす加奈陀かな

— 戦前カナダにおける日系人俳句コミュニティの社会学的考察 —

常葉大学教員 天野剛至

『研究紀要』については、各号の PDF 版を製作し、当館 Web ページにて公開している。

<https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/publications/kiyo.html>

(3) JICA 海外移住「論文」及び「エッセイ・評論」募集事業

日本国内における外国人とのよりよい共生が課題となるなか、日本人の海外移住の 150 年以上の歴史に対する理解と関心を高めることを目的として国際協力機構（JICA）は 2019 年に「JICA 海外移住論文」を創設した。

第二回の募集より、海外移住の歴史に対してより関心のすそ野を拡げることを目指し、論文部門のほかに「エッセイ・評論部門」を加え、テーマを第一回の「邦字新聞」から「日本人の中南米への移住」とした。

第六回は引き続き、募集部門を「論文部門」「エッセイ・評論部門」の二部門で、テーマを「日本人の北米・中南米への移住」として募集を行い、以下の作品が受賞した。授賞式は、「エッセイ・評論部門」を 2025 年 12 月 18 日、「論文部門」を 2026 年 4 月 17 日に当館内で開催し、館長より賞状・賞金が授与された。

※肩書は受賞時のもの

1) 論文部門

【最優秀賞】

タイトル：秋深し五七五交わす加奈陀かな
— 戦前カナダにおける日系人俳句コミュニティの社会的考察 —
氏 名：天野剛至さん 常葉大学教員
賞 金：50 万円

【優秀賞】

タイトル：ハワイ日系人社会における日本文化継承
— 日米開戦前の日本語学校課外活動を通じて —
氏 名：彌島真帆さん 株式会社乃村工藝社
賞 金：5 万円

タイトル：「中立国」アルゼンチンの日本人移民
— 『満洲新聞』と『亜爾然丁時報』の国際通話 —
氏 名：高木佳奈さん 東京科学大学リベラルアーツ研究教育院 教員
賞 金：5 万円

2) エッセイ・評論部門

【最優秀賞】

タイトル：「平和大通りに咲く赤い花」
— 被爆 80 年、『亜国日報』から読み解く 広島とアルゼンチンの絆 —
氏 名：相川知子さん ブエノス・アイレス市立外国語大学フアン・ラモン・フェルナンデス校レングアスビバス 教師
賞 金：20 万円

【優秀賞】

タイトル：あるハワイ移民の岐路 —和助とリウの選択—
氏 名：小迫孝乃さん 「お寺と教会の親なきあと相談室」アドバイザー
賞 金：5 万円

タイトル：インカ帝国の首都クスコに生きたパイオニア：西山音松の足音
氏 名：熊谷雄さん 北海道大学大学院 / ペルー日系人協会クスコ
賞 金：5 万円

第七回募集においては、引き続き国際移住機関（国連 IOM）駐日事務所による後援のもと、「日本人の北米・中南米への移住」をテーマに募集する。さまざまな研究結果およびエッセイ・評論を募り優秀な作品を発表することによって、日本人の海外移住の歴史に対する理解と関心を高め、移民研究のすそ野を広げることや多文化共生など今日的な社会課題への気付きを得ることをねらいとして実施する。2025 年 12 月に募集を開始し、応募締め切りは 2026 年 6 月 30 日までとなっている。

4. 運営委員会・学術委員会

(1) 運営委員会

当館の運営方針、事業計画、学術事項等運営に関する重要事項について専門的な見地から議論・検討することを目的とし、運営委員会を設置している。同委員会は学識経験者および JICA 総務部長、中南米部長、国内事業部長、館長等により構成される。2026 年 3 月 16 日に、学識経験者として飯野学術委員長の出席を得て実施した。

(2) 学術委員会

当館における学術研究に係る企画・実施協議・評価・交流を行うことを目的として、2006 年度に海外移住資料館学術委員会を設置した。同委員会は、学識経験者、海外移住資料館長（JICA 横浜所長）により構成される。

【2025 年度 学術委員会開催】

- ・ 第 1 回 学術委員会（5 月 23 日）
- ・ 第 2 回 学術委員会（10 月 29 日）
- ・ 第 3 回 学術委員会（3 月 11 日）

【2025 年度 学術委員】

委員長	飯野正子	津田塾大学理事・名誉教授
委員	中牧弘允	吹田市立博物館特別館長、国立民族学博物館名誉教授
	柳田利夫	慶應義塾大学名誉教授
	原山浩介	京都大学大学院教授
	赤木妙子	目白大学教授
	小澤智子	武蔵野美術大学教授
	福山文子	専修大学准教授
	大野裕枝	JICA 横浜所長（海外移住資料館長）

5. 各種実績等

(1) 来館者受入

(順不同)

1) 国会議員・閣僚等

広島市議会 石田祥子議員、川村真治議員、幸城麗子議員、横浜市議会 坂本勝司議員、米州友好横浜市議会議員連盟 会長 横山正人議員他 8 名、相模原市議会 萩生田康治議員、和歌山県議会 川畑哲哉議員、中西徹議員、三栖拓也議員、岩永淳志議員、上山寿示議員が当館をご視察された。

2) 在京大使館・領事館等

駐日ブラジル連邦共和国大使館ご一行、駐日パラグアイ共和国大使、駐日ペルー共和国大使、在東京ペルー共和国総領事、駐日アメリカ合衆国大使館ご一行、駐日ドミニカ共和国大使、在マナウス日本国総領事、在ドミニカ共和国日本国大使、在パラグアイ日本国大使、在ボリビア日本国大使が当館をご視察された。

3) 日本政府・国内自治体等

財務省、外務省領事局、外務省中南米局、外務省国際協力局、外務省研修所、海上自衛隊練習艦隊、神奈川県警察学校（複数回）、神奈川県教育委員会子ども教育支援課、香川県総務部知事公室国際課（オンライン）、福島県、佐賀県町村会、沖縄県金武町、市町人権教育連絡協議会学校教育部会（浜松市教育センター）、川崎市小学校外国語・国際教育研究会（川崎市総合教育センター）、平塚市教育支援室（子ども教育相談センター）、横浜市役所財政局、横浜市政策経営局、横浜市市民局、横浜市資源循環局、横浜市監査事務局財務監査課、横浜市水道局、横浜市鶴見区役所、横浜市中区役所、横浜市南区役所、横浜市磯子区役所、横浜市都筑区役所、横浜市観光協会が当館をご視察された。

4) 海外・国内関係機関・団体等

国連 IOM 駐日事務所、「第 29 期マンスフィールド研修員」（米国行政官）、ボリビア開発企画大臣（外務省招へい）、ブラジル連邦上院議員（外務省招へい）、米国国務省日本語研修所（JLTC Yokohama）、対日理解促進交流プログラム カケハシプロジェクト（JACL）（外務省招へい）、在米日系人リーダー招へいプログラム（外務省招へい）、在加日系人リーダー招へいプログラム（外務省招へい）、多層的ネットワーク構築事業（外務省招へい）、次世代日系人指導者（外務省招へい）、Juntos!! 対日理解促進交流プログラム（外務省招へい）、外国報道関係者招へい 南米グループ（外務省招へい）、ソーシャルメディア発信者招へい（外務省招へい）、全カナダ日系人協会（NAJC）、カナダ日系文化センター・博物館（NNMCC）、北米報知社、農水省 日系連携事業招へい者 ボリビア「日系アマゾン生産者協会（Asociacion de Productores Amazonicos Nikkei）、REN ブラジル、ブラジル日本語センター ふれあい日本の旅、大志万学院（ブラジル）、アルモニア学園（ブラジル）、ブラジル日本架け橋交流プロジェクト、日本財団 日系スカラーシップ事業（夢の架け橋プロジェクト）、大阪府海外移住家族会、AJAPE（NPO 法人日本ペルー共生協会神奈川）、町田市国際交流センター外国人相談部会が当館をご視察された。

今後も、外部からの視察等については、当館の啓発・発信の機会と捉え、積極的に対応したい。

(2) 他館・他機関への訪問

(順不同)

1) 国内

日本定住資料館、国立歴史民俗博物館、国立国会図書館、横浜市歴史博物館

2) 海外

2月17～27日にかけて当館スタッフが「日系資料館の連携促進・ネットワーク強化にかかる調査団」へ参加し、ボリビアおよびペルーへ海外出張を行い、関係機関を訪問した。主な訪問先は以下の通り。

ボリビア日系協会連合会、オキナワ日本ボリビア協会、オキナワボリビア歴史資料館、サンフアン日本ボリビア協会、サンフアン移民史料館、ラパス日本人会、ボリビア日本人移住資料館、ペルー日系人協会、日本人ペルー移住史料館「平岡千代照」、ペルー沖縄県人会ほか関係施設

(3) その他

1) 展示および資料整理に関する作業部会（ワーキング・グループ）

本部会は、当館の各種業務に関して、中・長期的な視野を持ちながら検討することを目指し2023年度より発足した。

会議では、①各種業務実績の共有、②常設展示場の改善に関する対応報告および今後の対応手順の整理、③今後の企画展示案の検討・決定の3点を中心的な主題として設定し、討議を行った。

【2025年度 ワーキンググループ開催】

- ・第1回 ワーキンググループ（2025年8月18日）
- ・第2回 ワーキンググループ（2026年3月11日）

【メンバー】

原山浩介学術委員
JICA 横浜 海外移住資料館担当者
海外日系人協会 研究・学芸部門担当者

(4) 他館への資料貸出

当館所蔵資料の貸出実績は以下のとおり。

日付	貸出先	貸出内容	利用目的
4/1	昭和館	画像 68 点	常設展示利用
4/1	益子珈琲	画像 3 点	
4/1	日伯協会	図書 4 点、標本 38 点	常設展示利用
4/1	福岡県八女市役所	画像 1 点	常設展示利用
4/16	広島県国際課	画像 1 点	
4/17	福岡県八女市役所国際交流センター	画像 4 点、映像 1 点、 パネル 34 点	
5/26	テレビ朝日	画像 5 点	
6/30	JICA 横浜	画像 1 点	

7/3	神戸海洋博物館	画像 1 点	常設展示利用
7/8	不二出版	画像 1 点	
7/9	JICA 横浜	画像 4 点	
7/9	NHK	画像 7 点	
7/10	NHK	画像 1 点	
7/14	第一学習社	画像 1 点	
7/18	在日ブラジル商工会議所	パネル 10 点	
7/24	駿台法律経済ビジネスカレッジ	画像 10 点	
8/29	在日ブラジル商工会議所	パネル 10 点	
9/1	徳島ブラジル友好協会	パネル 11 点	
9/4	国立歴史民俗博物館	画像 1 点	
9/8	JICA 横浜	画像 5 点	
9/25	JICA 高知デスク	パネル 36 点	
9/29	JICA 中部	パネル 16 点	
10/3	JICA 中部	画像 17 点、パネル 16 点	
10/16	駿台法律経済ビジネスカレッジ	画像 2 点	
10/25	JICA 東京	パネル 10 点	
11/18	JICA 広報部地球ひろば推進課	画像 2 点	
11/19	ハワイ大学マノア校	画像 1 点	
12/5	WUB ネットワーク	画像 22 点	
12/11	合同会社 itsuba.net	画像 1 点	
12/11	日伯協会	画像 1 点	
12/23	日伯協会	画像 1 点	
12/23	渋谷区役所文化振興課	パネル 19 点	
12/24	渋谷区役所文化振興課	映像 1 点、パネル 31 点	
1/17	横浜市磯子区民文化センター杉田劇場	画像 1 点	
1/21	静岡文化芸術大学	画像 2 点	
2/2	JICA 海外協力隊・パラグアイ日本人会連合会	画像 5 点	
2/27	桂樹社グループ	画像 1 点	
3/2	ハワイ大学マノア校	画像 1 点	
3/17	国立歴史民俗博物館	画像 1 点	

(4) 各種実績データ

2025年度業務実績一覧

2025.4～2026.3

常設展示スペース	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
入館者数	3,506	5,365	4,072	3,276	4,971	3,551	4,176	3,918	3,274	3,800	3,482	3,821	47,212
(前年度比)	166%	138%	150%	105%	131%	109%	117%	98%	94%	100%	100%	114%	116%
一般	3,065	3,645	2,735	2,834	4,707	2,863	3,386	3,037	2,477	2,489	2,902	3,318	37,458
学校関係	441	1,720	1,337	442	264	688	790	881	797	1,311	580	503	9,754
15歳未満	431	1,496	1,148	416	580	608	633	752	662	1,317	629	617	9,289
15歳以上	3,075	3,869	2,924	2,860	4,391	2,943	3,543	3,166	2,612	2,483	2,853	3,204	37,923
個人	2,913	3,060	2,495	2,619	4,625	2,563	2,597	2,690	2,277	2,263	2,728	3,063	33,893
団体	593	2,305	1,577	657	346	988	1,579	1,228	997	1,537	754	758	13,319
オンライン利用者数	0	0	0	0	0	0	5	74	60	0	59	0	198

※開館からの累計:799,351名

教育プログラム実施	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
対応件数	11	34	30	31	20	31	50	45	30	33	28	19	362
実施対象人数	254	1,799	1,173	639	300	778	1,367	1,023	917	1,274	574	498	10,596
インターン受入人数(のべ)	0	2	0	0	1	2	1	1	0	0	0	0	7

照会対応	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
対応件数	26	40	48	23	33	20	17	29	18	28	21	24	327
JICA	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
教育機関	1	0	4	6	2	1	0	1	3	4	3	4	29
国内団体	0	2	1	1	1	1	2	2	0	1	2	0	13
個人	25	34	39	16	30	17	15	20	14	21	12	20	263
自治体	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	4
制作会社・マスコミ	0	3	3	0	0	1	0	5	1	1	3	0	17
国外団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

閲覧室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
入室者数	231	189	212	232	266	162	237	205	183	276	151	223	2,567
(前年同比)	(前年度閉室)	(前年度閉室)	(前年度閉室)	(前年度閉室)	235%	188%	177%	147%	137%	132%	117%	117%	226%
一般	99	91	59	36	101	54	81	64	58	77	46	85	851
マスコミ等	14	5	29	20	25	0	6	10	7	12	10	10	148
JICA関係(業務)	91	73	95	164	135	78	138	120	107	110	90	127	1328
JICA関係(研修)	27	20	29	12	5	30	13	11	11	77	5	1	241

資料受入件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
資料受入件数	63	23	21	33	23	28	51	18	44	192	17	25	538
(うち取得)	10	16	6	10	10	8	14	6	9	2	4	3	98
(うち購入)	8	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	5	16
(うち寄贈)	45	7	15	21	13	20	37	12	34	190	13	17	424
(うち移管)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(うち寄託)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(うちその他)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

webページアクセス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
Visits(訪問者数)	4,620	4,305	4,459	4,559	4,787	4,115	4,469	7,139	4,506	6,025	3,750	3,854	56,588
PV(ページビュー数)	11,659	12,294	12,946	12,737	13,765	10,252	12,740	12,103	10,255	12,498	10,548	10,310	142,107

情報検索アクセス数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
PV(ページビュー数)	1,291	1,295	1,478	1,558	1,352	899	2,282	1,277	997	3,056	2,411	3,171	21,067
(前年同比)	241%	120%	183%	173%	127%	77%	259%	96%	98%	177%	246%	243%	170%
*検索件数	53,859	54,211	50,421	54,024	53,340	52,170	53,366	52,411	51,978	51,390	49,530	44,807	621,507

JICA 横浜 海外移住資料館 館報
2025 年度

**発 行：独立行政法人国際協力機構横浜センター
海外移住資料館**

発行年月：2026 年 7 月

問い合わせ先

JICA 横浜 海外移住資料館

〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港 2-3-1

Tel 045-663-3257 / Fax 045-211-1781

Web : <https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/index.html>

E-mail : jicayic_jomm_info@jica.go.jp

